

とやま 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

新川森林組合 森林作業員

稲垣 進さん

今回紹介するのは、

新川森林組合で森林作業員として活躍する稲垣進さんです。

滑川市の里山林

での竹林整備中の手を止めて、少し照れた笑顔で取材に応じてくださいました。



稲垣 進さん



伐った竹を整理

1 この道四十二年の大ベテラン

稲垣さんは、29歳でこの仕事に就かれ、42年目を迎えられた71歳です。

近年は主に、里山整備や刈払いの作業を担当っております。

就業した頃の仕事は、地拵え、植付け、下刈り、雪起しがメインでした。就業した頃の携わった森林が、40年余り経って伐採され、現在は新川森林組合(有)新川グリーン興産)の倉庫の柱に使われていることを、とても感慨深そうに話してくださいました。

2 後進の指導にも注力

長年の業務で培われた豊富な知識と経験で、現在は、作業班長として、「緑の雇用」で就業された班員三人と作業されています。

また、7年前から、林業カレッジで「緑の雇用研修」の講師を務めておられ、新規林業就業者等を対象に基本的な知識・技術・技能の実技指導をされています。

これらの技能が評価され、平成29年度に「森の名手・名人(造林手部門)」(主催:国土緑化推進機構)に認定されています。

作業班でもカレッジでも後進の指導に注力なさっている稲垣さんに、若い人に伝えたいことを伺いました。

・現場の景色は毎日違う。昨日はできても、今日はできないかもしれないと思って、安全に作業してほしい。

・昔の人が植えて育ててきた木を伐っているという気持ちを忘れないでほしい。

・手入れた木は応えてくれる。それが楽しい。

と、ご自身が日頃から思っていることをあげられました。

3 筋トレと弁当で仕事の体をつくる

チェンソー

を持つには腕の力が重要、何もしないなかつたらこの仕事は続かないと力強くおっしゃる稲垣さん。毎朝、起床時には、

腕立や背筋などを行なっているそうです。

また、体力が要る仕事のため、体の細い若手には、「もっとご飯をたべろ」とおっしゃっているそうです。ご自身は、奥さんが作ってくれるお弁当で午後からの力をチャージしておられるそうです。

仕事に必要な体づくりを怠らない稲垣さんと、その稲垣さんをお弁当で支える奥さまには頭が下がります。次は是非、稲垣さんの「サラメシ」を写真に収めたいものです。稲垣さんのさらなるご活躍を祈念しております。

文責 新川農林振興センター 林政・普及班



カレッジでの伐木実習 左から2番目が稲垣さん